原発ゼロへ

福島のいま

避難1年4カ月 つづく困難

住民〝先行き示せ〟

福島県では東京電力福島第1原発事故から1年4カ月たった今も被害が複雑化・深刻化しています。16万人を超す避難者。地域も家族も分断され困難な生活が続いています。昨年3月12日の早朝に防災無線で福島県川俣町への避難が呼びかけられ、住民が着の身着のままで避難した、第1原発が立地する双葉町民の思いは―。

双葉町

伊藤吉夫さん

天野正篤さん

双葉町は埼玉県加須（かぞ）市に移転している役場機能を福島県内に移し、県内に「仮の町」（時限的な町）をつくることを検討しています。

「仮の町といわれても、行き先の分からない電車にとりあえず乗れといわれるようなものだ」

双葉町民でつくる「県中地区借り上げ住宅自治会」会長の伊藤吉夫（きちお）さん（70）は指摘します。

借り上げ住宅の避難住民は、ばらばらになり情報が入りづらい条件なので、交流を進めようと1月下旬に自治会を結成しました。月1回集まりを持ち、現在77世帯193人が入会しています。

みんなが一番求めているのは今後どうなるのかという情報です。

政府は避難区域の再編で双葉町のかなりの地域が帰還困難区域になる方向を示しています。

伊藤さんはいいます。

「肝心なのは帰還困難区域になったとしてどうなるのかという情報が示されないこと。建物・土地の賠償がどうなるか、他の地域での建物・土地との交換が可能なのか。それがないと先の生活が描けない。政府は自分が双葉町民だったら何が必要かという立場で対処してほしい」

双葉町民が避難している郡山市の喜久田仮設住宅自治会長の天野正篤（まさあつ）さん（74）は、双葉町民を1カ所に集めるという発想でなく避難している地域で周辺住民と打ち解けた生活ができるようにすること、同時に双葉町の住民で集まる機会をつくり情報を交換し絆を保つことが現実的だと指摘します。

天野さんは「避難住民が誇りある生活を送れるために、働く場を確保することが必要だ。政府はそこに力をいれるべきだ」といいます。

双葉町福島支所生活支援班の担当者は、「現場で苦労しているわれわれから見ると、国は何をやっているのかさっぱり見えない。東電には加害者意識が感じられない。1年4カ月たっても次のステップが見えない。こんなままなら、むしろ旗立てて、それこそ一揆するしかない」と憤りをあらわにしました。

◇

日本共産党は避難区域から避難して帰還を望む人も、避難先での定住を求める人も、自主避難した人も、不安を抱えつつ県内にとどまる人も、みんな被害者であり、政府は等しく支援する義務があるとして、その実現を求めています。

東京電力福島第１原子力発電所事故で警戒区域に指定されている福島県双葉町の商店街＝４月20日（福島県双葉町の住民提供）

双葉町民の避難状況

双葉町民約7000人のうち県内避難は3605人。県外には町役場の機能が移転している埼玉県に1180人、東京都に393人などとなっています。

避難先は借り上げ住宅が約40％、仮設住宅が約15％。埼玉県旧騎西高校では200人を超える人が避難所生活を続けています。　（７月２日現在）

官邸前から全国へ

毎週の官邸前行動を報じる「赤旗」１面

「大飯原発（福井県）3号機の再稼働をやめよ」の声が日ごとに大きくなっています。

全国から注目されているのが首相官邸前の抗議行動です。首都圏反原発連合の有志が3月から毎週金曜日を中心に始めたこの行動は、数百人から1000人にひろがり、6月29日には20万人、7月6日には15万人、同13日には15万人（いずれも主催者発表）と、空前の規模が続いています。

非暴力で誰でも参加できる行動にするため、家族連れを対象にしたファミリーエリアもあります。「故郷を守りたい」。福島県に親戚がいる女性の訴えを聞いた参加者が、みんなで「ふるさと」を合唱する場面も生まれました。

官邸前行動に連帯する行動が全国に広がっているのも、新しい特徴です。関西電力本店がある大阪市をはじめ、札幌市、富山市、金沢市、福井市、名古屋市、京都市、神戸市、佐賀市、長崎市、宮崎市、鹿児島市…。さらに広がる勢いです。

大手メディアが官邸前抗議行動を黙殺し続けてきた間、「しんぶん赤旗」はずっと報道し続けてきました。「『赤旗』しか報道しないって、どういうことよ」「まともなのは『赤旗』だけか」などの怒りがわきおこり、ついにメディアも取り上げざるをえなくなりました。

◇

いま全国で、「原発ゼロ」をめざす集会やデモ、パレードが毎日のようにおこなわれています。それも市区町村の単位、草の根で広がっています。「原発なくせ」の共同をさらに大きくして原発のない日本を実現するために、「しんぶん赤旗」は報道を続けます。

「赤旗」はありのまま伝えます

しんぶん赤旗をお読みください

●お申し込みは、お近くの党事務所または党員か、ホームページ、メールで受け付けています

購読申込書

○印をおつけください　●日刊紙3400円　●日曜版800円

お名前　　住所　〒　☎

日本共産党中央委員会　〒151-8586　東京都渋谷区千駄ヶ谷4-26-7
☎03-3403-6111　ファクス03-5474-8358
http://jcp.or.jp/　info@jcp.or.jp

原発のない世界のつくりかた
「脱原発世界会議」実行委員会［編］
大好評発売中
国内外から223のメッセージを集録！
安斎育郎、飯田哲也、池田香代子、上野千鶴子、大江健三郎、小笠原厚子、小山内美江子、落合恵子、香山リカ、小出裕章、児玉龍彦、斎藤貴男、坂本龍一、ジャン・ユンカーマン、瀬戸内寂聴、高橋哲哉、竹下景子、辻井喬、野中ともよ、鳩池逸、浜矩子、福島みずほ、星川淳、益戸育江、吉仲真司、森住卓、山本太郎、湯浅誠、湯川れい子、ほか
●A5判並製／248ページ／1260円
東京都千代田区神田神保町1-28　TEL03(3294)3505 FAX03(3294)3509　http://www.godo-shuppan.co.jp/　合同出版［価格税込］

「原発ゼロ」の日本を
―原発事故の三つの教訓
志位委員長の講演と一問一答
「安全神話」復活は許せない
電力会社、原発メーカー、ゼネコン・大銀行、政治家・特権官僚・御用学者、大手メディアが「利益共同体」としてうごめく原子力村の動きを正面から批判し、原発に安全基準などないことを明らかにします。
A５判パンフレット 定価２００円（税込）送料80円
不破哲三「科学の目」で原発災害を考える
「なにしろわかりやすい」と「近聞速見」（毎日新聞）で岩見隆夫氏が推薦
フクシマでは、何が、どうして起こったのか。ほかの原発は大丈夫か。日本はこれから何をすればよいか……。原発のそもそも論から原発災害の根源と責任を、三つの角度から明らかにしています。
A５判パンフレット　定価１５０円（税込）送料80円
日本共産党中央委員会出版局
直送ご希望の場合は〒151-8586東京都渋谷区千駄ヶ谷4－26－7 TEL03-3470-9636 fax03-3470-1505 Eメール book@jcp.or.jpまで

なぜ再稼働を強行するのか！「推進勢力」の裏側を暴く
原発の闇　その源流と野望を暴く
原発の深層　利権と従属の構造
赤旗編集局 著　定価各1260円（税込）
原発にしがみつく人びとの群れ　原発利益共同体の秘密に迫る
「原発ゼロ」の願いを足蹴にし、なおも原発に群がろうとする「原子力村のベンタゴン」！　この五角形勢力の知られざる姿と全体像に迫る。
小松公生 著　定価780円（税込）
新日本出版社　151-0051東京都渋谷区千駄ヶ谷4-25-6　TEL03-3423-8402 www.shinnihon-net.co.jp

原発ゼロの日本へ

●6万人を感動させた決意と希望のメッセージ
福島からあなたへ
武藤類子著・森住卓写真
昨年九月、明治公園に六万人を集めた「さようなら原発集会」で、福島県民の不安と葛藤、そして立ち上がろうとする人々の意志を力強く訴えた武藤類子さん（ハイロアクション福島・福島原発告訴団）。世代を超え共感を広げたこのスピーチに、書き下ろし原稿と美しい写真を加えた、大切な一冊です。
46判・1200円　大好評4刷
大月書店　東京都文京区本郷2丁目11-9　電話03(3813)4651〈代〉　税別
メールマガジン配信中 www.otsukishoten.co.jp

放射能からいのちとくらしを守る
判型：A5判ブックレット・八〇頁　定価：七〇〇円（税込）・ISBN978-4-7807-0652-9
日本科学者会議 編
小出裕章　核＝原子力のこれから　生まれ故郷で語る
判型：A5判ブックレット・一一〇頁　定価：七〇〇円（税込）・ISBN978-4-7807-0726-7
ひろがる内部被曝　矢ヶ崎克馬がすべて語る　Q&Aプラス最新解説
判型：A5判並製・一三六頁　定価：一三〇〇円（税込）・ISBN978-4-7807-0789-2
矢ヶ崎克馬 著
藤田祐幸が検証する　原発と原爆の間
〈対談〉わが国の核兵器生産施設在備力／日本の安全保障　1968年版から
判型：A5判並製・一六〇頁・定価：一一〇〇円（税込）・ISBN978-4-7807-0796-0
本の泉社　〒113-0033　東京都文京区本郷2-25-6　TEL.03-5800-8494 FAX.03-5800-5353　http://www.honnoizumi.co.jp/

かもがわ出版
騙されないために　フクシマから学ぶ　原発・放射能
安斎育郎◆監修　B5判96頁　市川章人／小野英喜　定価1680円
この本は、児童・生徒にむけて作られました。でもお父さんお母さんにも読んでほしいのです。過ちを繰り返さないために。
原発ゼロ　私たちの選択
安斎育郎・飯田哲也　大島堅一・長谷川羽衣子◆著
A5判86頁　定価1000円
原発に頼らないエネルギー社会のあり方を考える対話と共同の輪を。4人のエキスパートによる問題提起。
〒602-8119京都市上京区堀川通出水西入　TEL 075(432)2868　FAX 075(432)2869　http://www.kamogawa.co.jp